昭和薬科大学における実務実習ガイドラインに基づいた「病院実習」の実施内容　　Ver.20180413

☆患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院で活躍することができるために、基本的な薬物療法及びチーム医療に参画する実践的能力を修得する

☆代表的な８疾患（がん、高血圧、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫アレルギー疾患、感染症）を病院実習を通じ、体験として学ぶ

実習項目	実習内容	期間	評価
全ての実習項目で共通事項	○医療人としての心構えを理解する ○医療機関におけるチーム医療の役割を体験し、理解する ○薬物療法におけるリーダーシップを発揮できる ○医療安全管理（リスクマネジメント）を理解する	全期間を通じ	ルーブリック評価
病院実習導入	○病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れを理解する ○入院から退院に至るまで入院患者との医療の関わりを理解する ○医薬品の供給管理を理解する	0.5週間	ルーブリック評価
処方せんに基づく調剤（医薬品の調製）	○内服／外用薬調剤 ・処方監査から計数及び計量調剤を体験する　なかでも、処方監査、疑義照会、外来の場合は患者応対・服薬説明を重点的に行う ○注射薬調剤 ・注射処方（がん化学療法、TPN含む）に従って処方監査（プロトコール、レジメン、分量、投与速度や投与ルートも含む）から注射調剤（無菌調製を含む）までを体験する	2 - 3週間	ルーブリック評価
医薬品管理	○ 適切な医薬品の供給と管理を実践する	0.5週間	ルーブリック評価
臨床薬剤業務の実践（病棟業務実践） **＊代表的な８疾患のうち、最低　3疾患以上は病棟業務の実践で学生が体験実習として学べる環境を整える。ただし、入院時の主疾患でなくても構わない。** **＊医薬品情報（DI）、TDM、処方解析・処方設計実習・演習は、この項目に含む** **＊実習する診療科は内科を中心とする**	病院内の多様な医療チームの活動に薬剤師の立場で参加し、医師、看護師、その他メディカルスタッフと連携・協力し患者の治療目標や治療法を考え、治療に積極的に参加する ○疾患と薬物療法 ・代表的な疾患（がん、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、感染症等）について、患者の病態生理、薬物治療方針を理解する ○患者情報の把握 ・種々の情報源（患者面接（持参薬や服薬コンプライアンス）、カルテ、カンファレンス）から、薬物療法の立案と評価に必要な患者情報を、倫理的観点からも配慮し収集できる ○医療情報及び医薬品関連情報の活用（情報の収集、吟味、加工） ・クリニカルクエスチョン（CQ)を見つけ、CQに関する情報を診療ガイドラインや適切な三次資料に基づき　EBM　STEP s の考えを用い、解決できる ○処方設計・処方解析と薬物療法の実践 ・患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理や患者の希望）や薬剤の特性に基づき、適切な処方を立案できる ・共同薬物治療管理（CDTM）、プロトコールに基づく薬物治療管理（PBPM）、クリニカルパスを体験できる ・薬物動態学的な観点から処方設計と薬物療法の実践できる ○薬物療法総合演習 ・患者の臨床上の様々な問題点について、問題解決にむけた初期計画と、入院治療のゴールと退院後も含めた長期的ゴールを立案できる ・臨床の場（チーム医療回診やカンファレンス）で患者及び医師などのメディカルスタッフに対し、エビデンスに基づいた薬物療法に関する情報を適切に提供・提案できる ・POSに基づいた症例検討を行うことができる。薬剤管理指導の内容を記録できる。 ・得られた薬物療法に関する情報を医療チーム（患者、メディカルスタッフ）にわかりやすく伝えることができる（アカデミックディテーリング）	7.5-8.5週間	薬物療法の実践に関わる項目 ⇒ルーブリック評価 チーム医療に関わる項目 ⇒実習日報